

被災地復興へ「一歩」

栗東・小学生ボランティアサークル



焼きイモの待ち時間は紙芝居で。西宮市安井小を訪れた栗東町のボランティア(2月11日)

スポーツ交流で元気を

来月5日西宮(小)へ

阪神大震災の被災地、西宮市の小学校を栗東町の小学生のボランティアサークルが三月五日に訪れ、サッカーやバスケットボールの試合で交流する。

このサークルは、栗東町ボランティアセンターに登録している「一歩」山田貴子代表(小)で、「自分たちにできることはないか」と十一日に山田さんら三人が、紹介を受けた西宮市立安井小に向いて焼きイモや紙芝居をした。

その時、ボランティアの窓口を務めていた安井地区の体育指導委員が「早く子どもたちの歓声が戻ってほしい」と話したのを聞き、山田さんらが「一歩」とのスポーツ交流を提案した。「一歩」は、栗東町の治田小の児童を中心に約三十人で月一回拾いや道路掃除などの活動をしているほか、毎週月曜日にバスケットボールの練習をしている。

安井小では、いまも約五十人の児童を含む約四百人の被災者が避難生活をしている。当日はサツマイモ五百本と水あめや紙芝居も用意し、サッカーやバスケットの試合とともに、さまざまな交流をすることになっている。

家具類を固定作業

地震から高齢者を守る
愛知郡消防本部
地震による家具倒壊を防ごうと、愛知郡消防本部は高齢者宅などの居間や寝室などに置いてある家具類の固定作業を進めている。

阪神大震災で家屋倒壊などによる死者が目立ったため、来月初めまでに管内に住む七十五歳以上の高齢者や身障者宅五十世帯を巡回して固定する。

二十四日は、係員三人が愛知郡大萩の無職辻はなさん宅を訪れた。ナイロン製ロープを、U字型固定留め具で居間にあるたんすの上部両端と柱に打ちつけて固定。作業は三十分ほどで終わったが、辻さんは「先日の地震では、家全体が縦横に揺れてとても怖かったが、これでひと安心です」と話していた。